

第十回 參議院農林委員會會議錄第四十一號

昭和二十六年五月二十八日(月曜日)午後一時五十一分開会

本田の会議に付した事件  
○森林法案(衆議院提出)  
○森林法施行法案(衆議院提出)

○新林沙於行家八參訓圖持

○委員長(羽生三七君) それではこれ  
より委員会を開けます。

○門田藏君 先日の委員会で森林法案並びに同施行法案についてなお質疑のおありのかたは月曜日にということを申上げてありますので、本日時間の関係で一時間半くらいだと思いますけれども、質疑を続行いたしたいと思いますのでどうぞよろしく……。

日本本の實情問題は、不思議な現状から考へまして、将来必ずこの林野の開墾が必要であると考えられます。これにつきまして本法案が若し実施された場合に、そういう適地によつて開墾の希望が各地方から出た場合、こういう場合にはいろいろと所有者その他希望者の間に問題が起るのじやないかと考えられます。その場合に当つて当局はその処置について何かお考えがあるのですか。それをお聞きしたい。

○政府委員(横川信夫君) この森林法案は開拓地の開拓、適地の開墾というようなことについて何らの制限をいたしてございません。御承知のように今農林省では開墾適地の基準を作つておりますが、基準に當てはまるものは協力しまして開墾を進めて参るといふうに考へておるのであります。この法案では何らその仕事を進めます

○政府委員(横川信夫君) 従来非常に問題が紛糾して参りましたときには、農地局の係官と私どもの係官と参りまして、共同調査をいたしております。土地の総合的な考え方から利用度の高い農地にいたすのが適當であるといふような林野につきましては、快く御協力を申上げまして、開墾をすることをお奨めしておりますような事情で、從来もう少しも変りがない取扱をいたす考えでいるのであります。

りますが、これらがそういう場合法律によつて届出をする性質のものであるかないか。又もう一つ僅か数本の木を伐つた場合でも、これを価額に加算して計算して税金の対象とするようなことは私ども上くないと思います。それらについてどういうお考えでしようか。

おる事實を見ておるのであります。若しこの林野に指定された所がその地方においていろいろ／＼そういう問題が将来起るのじやないか、たとえ林野であつてもその地方においてはその地方の人口問題、開墾の適地であるといふようなことを林野であつても農地委員会等において認めた場合、その場合にいろいろな問題が起つて来ておるのは從来の事実に従して我々の実験しておるところであります。そういう林野に対する問題が起つた場合に、適當なこれが開墾地と地方で認められた場合に、当局はそういう問題が起つたときにどうする処置をおとむこなるか。

○政府委員(横川信夫君) 一應さよう  
な点を考慮いたしまして、一戸当たりに  
つきまして五反歩ずつの自家用林とい  
うのを認めておるのであります。そこ  
におきましては自由にいつでも何の届  
出も何もなしに勝手に用材も薪材も伐  
れる途を開いてござります。

○門田定蔵君 五反歩ということはわ  
かりましたが、或いは五反歩以上であ  
りましても、そういう場合が、農家と  
しては或いは六反とか、八反とか、一  
町内外の所有者かたくさん自家用とし  
て山林を所有しておるのがあるのです  
ばならんが、こういう場合にどういう  
お考えでしようか。

○門田定藏君 我々が從来林野の開墾等に當つて農地委員会その他が開墾の要求をしておるため、林野の所有者が殊更に林野の開墾の適地であつても

があるのですが、この法案が施行された後、或いは自家用として間伐等僅かな伐採を要する場合、こういう場合に一本切つでも二本切つでも、これをこ

のに制限をいたすようなことはございません。又そういう考え方もございません。

と思うのですけれども、森林の所有者といふども數十町歩、或いは大きなのは數千町歩、小さいのは一町歩以内の

農院委二

員会會議録

第四十一号

質問されたのは植林或いは治山といふことと開拓というようなものが将来競合関係が起りやしないかということに対しまして、開拓のほうは一定の基準があるわけであるからして、そういう虞れがないというよう言われましたが、併し現実には今日までそういうような競合関係が起き、或いはトラブルが起きておつたと思うのでありますて、又開拓の適地として開放された所が、その後は立木だけは伐られたけれども一向に開拓されないで、それが原因となつて荒廃を來した、というような所もあつたわけです。私はそこでこの際お尋ねしたいのは、治山計画というようなものの根本方針なんであります。これは先だってちよつとお尋ねしましたところが、中央の森林協議会とか、森林審議会といふような所で根本

期輪級以上でござりますれば届出をして頂くということになります。差当り五反歩の中で間に合わせて頂きまして、それよりもたくさん要る場合には届出をして頂くという取扱をいたしました。なお一本、二本自家用に伐りましたものを税金の対象にみなすかどうかということは、地方の税務署の判断でございますけれども、でき得ますれば、私ども自家用に使いますものを税金の対象にするというようなことがないよう一つお取扱い願いたいというふうに税務署と話合いをいたしました。さつもりでございます。

く根本方針は何であるか、ということが  
我々にはよくわからんだけでありまし  
て、その点をもう少しほつきりとお答  
え願いたいと思います。即ち一体そ  
ういうものを将来利用するといふものに  
対しまして、いろんな利用の方法とい  
うものがあるわけでありまして、例え  
ば将来その食糧生産といふもの、勿論  
これはただ澱粉質といふだけではなし  
に、畜産関係の蛋白資源の問題もあり  
ましようが、そういうような食糧とい  
うような問題を中心にして行く考え方  
も出て来ると思う。或いは又そこから  
出て来る木材の生産量、といふものを論  
議にする考え方も出て来ると思う。或  
いは又治山ということを中心にする考  
え方も出て来ると思うのです。そういう  
もののを全部うまく調整してやるのだ  
という答えを恐らくされると思ひます

方針を立てられるということでありましたが、併し中央審議会がどういう答えを答申したところで、林野庁として、或いは農林省としては今日まで治山計画というものをしばしく発表された以上は、そこに根本的な方針があると思うのでありますて、どうも我々が今まで林野庁或いは農林省あたり全體から発表された資料を見ますと、開拓については傾斜度が幾らで日当りがどうでというようなそういうよろなことだけが出て来る。治山計画についてはただ面積がこういうことになつて、それに対する予算がこうでといふようなことだけが出て来て、一体そういうような治山計画といふものを進めて行く

が、そういう答えはいつでも出で来る  
のでありますけれども、實際にはなか  
なか調整できない。調整できないとい  
うことは同じ農林省の中につても農  
地局關係と林野厅關係とはしば々意  
見が対立し、現地においてもトラブル  
が出て来ておる。農林省關係だけな  
に、農林省と建設省と比べて見る  
と、そこにはやはり意見の食違いがある  
わけなんでありまして、そういう点で  
今度の基本計画というようなものが、  
流域別に立てられるということはこれ  
は私は大きな進歩だと思うのであります  
が、流域別ということは私の解釈に  
よるというと、従来の治山計画とい  
うものは治水計画と結付いておらない、  
治山治水というものがはつきり結び付  
いて来たものと私は解釈するのであり  
ますけれども、この解釈は違つておる  
かも知れません。そういうことにつき  
まして、もう少し林野厅としては治山  
計画を立てられるのに、大体年々の伐  
採量は幾らであつて今造林面積が幾ら  
であるということになしに、その根本  
をどこに置かれるのかということをお  
尋ねしたいのです。

え申上げておつたのであります、日本保安林の面積が民有林、国有林を含めまして約二百万町歩でございます。それを約四百万町歩にいたしまして、国土保安の骨を作つて参らうといたします。なお御承知のように、濫伐をいたしました結果、荒廃いたしておりますのであります。まさに荒廃林に移行しようといふ林地が約三十万町歩、二十九万六千町歩ほどあるのです。そのほかにまさに荒廃林に移行しようといふ林地が約三十万町歩ござります。これを十カ年で全部回復をして参りたいと考えまして、過半のものを五カ年計画で計上いたしておるのであります。先ほど御質問のございましたが、先ほど御質問のございました治山の根本計画はどういうところに置いておるかというお話をあります。が、私どもいたしましては、できるだけ森林の造成によつてその森林の持つた国土保安の機能を十分活用することによって国土保安の万全を期して参りたい、さように考えておるのであります。

いうのが国土調査法ではないかと私は解釈しておるのであります。これは将来の森林計画に当りますてもやはり治水ということが中心にならなければならぬのではないか、そういう点はどうも林野庁ということになるが、林野庁と、水の問題でなしに、たゞ木の問題を第一に考えられて、何でも国土が鬱蒼とした森林で蔽われてしまえばいいというようなお考え方になりがちだと私は思うのであります。そういう点は実際にはそんなことを言つたつてできるものではないのであります。いわば農業の要請もありますし、或いは建設関係の災害防止という要請もありますし、いろいろな要請が出来来ますとして、なかへ國の予算のないときに山を鬱蒼として生い繁らすということはできるものではないのであります。やはり一定の予算というもの、一定の国民の資力というものを効率的に使つて行かなければならぬ。それにやはり流域ごとにもつと緻密に水の流量調査をやられ、或いは又土地の崩壊の状況なり土質の状況なりその他を調査して、一体この流域についてはどこどこを保安林として設定したならば、治水面といふものがやつて行けるのであるかということが私は中心ではないかと思うのであります。そういうことで一つの保安林といふものができるれば、ほかのものについてこれをできるだけ農業関係に開放していく、その農業といふものは必ずしもうなことで一つの保安林といふものでなしに、或いは食用林産物といふ意味での広い農業もありましようし、あるいは放牧関係の畜産といふものもありましようし、やはり狭い国土といふ

のを効率的に使つて行かなければならぬのでありまして、それにはどうやらも基調になる考え方どいうものは水でなければならんということを常々人々えておるわけでありまして、そういう点について一体林野庁あたりはそうではない別なお考えでやつておられるのがどうかということ、又水というものが中心にして考へるならば、そういうことについて建設省あたりと一体うまく連繫がとれておるのか、或いは又それに必要なところの基礎的な水調査、或いは土地の崩壊の調査とか、そういうものができておるのか、やろうとお尋ねたい。

それから又例えば松食虫の跡地の問題にしても、ただ松食虫の跡には植えなければならぬといふようなことは盛んに言つておりますけれども、将立つの松食虫の跡をどういう山にしたらいつか、そういうことについても今申しました水というような観点から、松食虫山の跡ももう一遍再検討いたしまして、又治水面に障害のないことなど、木を植えないでもほかのことをやつてもいいし、土地の高度利用が國土されるのではないかと思うのでありますて、そういう点があつて林野第第一主義、セクシヨナリズムに促されておるのではないかと思つりますけれども、どうもほつきりしないよう思つのでありますて、お答え願いたいと思うのであります。

○政府委員(横川信夫君) 水を中心としているべくの施策を特に林政などは考へるべきではない、なんなく國土保安ということについては考えなければならないのではないかといふうな考え方です。

御意見、私どもも水は最も大きな調査すべき対象であるといふに考えておるのでありますて、昭和十四年から群馬県の宝川という所に水の試験地を作りました。これは世界でも二番目に古いしつかりした基礎を持つた試験地でありますて、この結果によりますと、降りました水は七五%が流れ出します。有林地であつても無林地であつても共に七五%は流れ出ます。ただ木のあります場所は流れ出すのに非常に時間がかかる、ゆっくり流れ出して来る、それが木のないところですと一度にどつと流れ出して参りますて、非常な災害を及ぼすこともある、そういうような結果が出ておるのであります。残念ながらお話をございました無林地の土地の土砂の流出状況、或いは崩壊状況といふようなものを併せて調査をすればよかつたのであります。施設の関係でやつておらないのであります。宝川の試験地の結果につきましては、いずれ本委員会にも報告を申上げたいと考えておつたところであります。又それに関連いたしまして、松食虫の跡地というようなものに対する復旧等もどう考えるか、といふようなお話をございましたが、兵庫、岡山等に非常に跋扈いたしました松食虫の被害もようやく本年度あたりから猖獗の度が低まつて参つたようではありますけれども、この跡地を農地にいたすのでありますれば格別、或いは更に高度の利用を考えるのであれば格別であります。なお林地として将来松食虫が起きないようにすると、それによつて国土保安の効果

仕立といふようなものをやめまして、松と適当な闊葉樹を混入させて成立させることによりまして、松食虫の被害を従来のようなことにならないように施策をして参りたい。又松食虫の天敵を林内に誘導することによりまして、松食虫を絶やすといふようなことも考えておるのであります。いずれにいたしましても、お話をのように水ということは決して私ども軽視しておるわけではありません。山を作りますにも水の流出の状況といふようなことを常々頭に置いて森林を仕立てておるつもりでありますのであります。今後もお話をような点を十分考慮いたしまして、森林の育成を図るということを指導して参りたいと考えております。

うなことについて積極的な施策は実際行われておるのでありますか。

○政府委員(横川信夫君) 苗木のことについて申上げますが、一本のアカシヤ、多分江田先生のお探しになつたのは「とげなしアカシヤ」でないかと思ひます。あれは一本の木から十数本の苗木ができるようになつておるのであります。岡山の県庁ではたしかあそこにござります試験場と連繋いたしまして、一本四円くらいでお分けをしておはづでないかと思います。それを一年置きまして二十センチくらいに切りまして、それを插しますと、すぐに新しい苗木ができるという特別な生活力の旺盛な木でございまして、たまそれは不当な苗木商に交渉された結果でないかと思ひますが、只今全国的に「とげなしアカシヤ」というものは非常に広まつて参つておりますので、現在はさようなことがないと思ひまするし、それから全体の造林面積に間に合います苗木といふものは、十分只今確保されておる状態でござります。

○江田三郎君 なか／＼それがどうおつしやるようにはまだ行つておらんのですして、それと一体「とげなしアカシヤ」というものについては、将来再びとげのあるようなものにはならんといふはつきりした実験的な、或いはまあ学術的な結論というものが出ておるのをございますか。

○政府委員(横川信夫君) 大体において「とげなしアカシヤ」は何代も更新いたしましても、とげが出ないということになつておるのでありまするが、たま／＼先祖がえりいこ／＼まゝて、とげの出て来るようなものもあるようあります。その率は非常に少いように

私ども考えております。大分全国的に  
「とげなしアカシャ」というものが植  
えて参りましたが、大体においてとげ  
が無くて何代も進んでおるのでござい  
ます。たゞ少し老齡木になりますする  
と、幹の下のほうにとげが出て来るよ  
うな現象はありますようですが、只今  
御心配のように全部とげを持つて参る  
というようなことは、私ども現在の状  
態ではないと考へております。

○江田三郎君 今日はこれでやめま  
す。

○片柳眞吉君 私の質問は或いはダブ  
つておりますればお答えは要りません  
が、先ず第一点は適正伐期齢の問題で  
ありまするが、この場合に、従来から  
も経済的な理由で早く伐るというより  
も、特殊の用途に当てる意味で、或い  
はここに書いてありまする適正伐期に  
達せぬものもまあ慣行的に伐つておる  
ものが私はあるのではないかと思う。  
といいますのは、例えば私の郷里の奥  
多摩地方あたりでは、主として特殊の  
丸太を供給しておるわけです。恐らく  
二十年も過ぎますれば相当伐つておる  
のではないかと思います。これは細い  
長い丸太を供給する、かような観点か  
ら余り太くなると却つて用途に合致  
しないと、こういう地方があるのです  
ります。その他の方面にも特殊の用途  
に充てる意味で、もう慣行的に或る程  
度客観的に見た一般的な適正伐期に達  
せぬものも伐つておる。これは大抵す  
ぐ植ておると馬鹿のでござります  
が、そういう場合に、そういう縦体的  
な適正伐期といいまするが、そういう  
ものをお認めになる御方針はどうか、  
一つその点を伺います。

が特殊の林産物を生産いたしております。するものは、特殊な伐期等で扱つて参りたいと考えております。

只今お話の四谷丸太とか或いは北山台杉とか、その他ステッキ用に櫻の密植をいたしまして、細いものを出しておりますが、さようなものは特別に扱つて参考でございます。

○片柳眞吉君 それからその次に森林組合のことと二三お聞きしておきたいと思いますが、これも或はもう御質問が出ておるかも知れませんが、第八十六條の第一項で組合員たる資格を規定しておりますが、この場合に法人が加入できますかどうかといふ点。それから第二号の「組合の地区内においで林業を行ふ者」、この中に薪炭の生産者が入つておりますかどうか、この二点を先ず伺いたいと思います。

○説明員(武田誠三君) 今の森林組合の組合員でありますべく、施設組合のほうには法人も加入することを考えております。それから生産組合のほうは、ここにござりますように個人に限定をいたしております。それから施設組合のほうの組合員であります第二号のこられは準組合員に相当するものであつますが、新炭業者等も必要がありませば、これは認めてよろしいかといふうに考えております。

○片柳眞吉君 そうすると、この薪炭の生産者はこの第一項第二号の「林業を行ふ者」という解釈に入るわけですか。

○説明員(武田誠三君) この林業は薪炭生産まで含めたいというふうに考えております。

○片柳眞吉君 その次に今度の法案にありますと、協同組合的な色彩が濃

くなつて参りまして、従いまして加入脱退が自由である、こうしたことになりますと、例えは生産組合で森林の長期間の育成途上にどん／＼組合員が脱退をするという場合に持分の払戻しに実は相当私困りはせんかと思うのです。例えば伐期適齢に達しない前に組合員が脱退した場合には、一応脱退は認めるけれども伐期が来てそれが处分できるまでは払戻しを待つてもらうといふような考え方がないと、結局大部分の資金は山林なり林道等に資金を固定をしてしまふわけでありまして、さような場合にどん／＼脱退の自由を認め行きますすると、これはまあ觀念上の心配かも知れませんが、脱退者が多い場合には非常に借金でもして来んと持分の払戻しができないと、こういうことが心配されるわけでありますから、その辺に対してもういろいろなお考えを持つておられますか、お聞かせを頂きたいと思います。

な事態が頻発して来るというようなことではありますれば、その際には特殊な考慮を払わなければならぬかという

○片柳真吉君 ように考えます。

○説明員 武田誠三君) 出資組合につきましての持分であります、持分といふものの解釈によると思います。出資組合から脱退いたしましたときの一般の持分関係といふものは考え方ないと思います。解散の場合におきましては、そういうふた持分が考えられて来るかというふうに考えるわけであります。

○片桐義吉君 そこで若干の疑問とい  
いまするが、出て参りまするのは、出  
資をしておる組合でも併行して賦課金  
でありまするか、経費を組合員に賦課  
できるわけであります。その出資制度  
をとつておる組合はこれは当然に出資  
額に応じて持分が算定されるというこ  
とになると思うであります、そうち  
なつて来ますると出資額と賦課金とが  
平衡しておりますればこれは持分の関  
係は不均衡が起きて来ないと思ひます  
が、出資が少い場合、少い組合員に或  
いは賦課金が非常に来ておると、その  
賦課金で林道なりその他の施設をする  
ということで出資と賦課金とが不均衡  
になりますると、持分の計算に実体上  
に非常な不均衡が来るというようなこ  
とを一応心配するわけであります、  
その辺をどうしうふうに或いは指導な  
り、実際の経費の賦課を大体出資に応  
じて賦課をするということであります

れば、私の心配は杞憂になるわけでもあります、その辺の一つ方針をお伺いしたいと思います。

○説明員(武田誠三君) 一般的に只今  
の御質問のような形で指導はいたして

参りたいと思つてゐりますが、例えば林道を建設いたします場合に、組合員にその費用を一部負担させるといふような場合が起つて参ると思いますが、かような場合にはむしろその受益関係といつたほうが強く出て来るようになります。従いまして、今御質問のような点が必ずしも出資額と、この点とが平衡的にならない場合もあると思います。その点につきましては、持分関係は実は私どもいろいろ研究をいたしておりますが、理論的にもむずかしい問題があ

るようにも考へております。お詫の趣旨につきましては十分更に検討を進めまして、持分関係でいろいろなトラブルが起らないよう指導なり運用を図つて参りたいと、かように考へております。

○片柳眞吉君 それからこの生産組合は主として組合みずから森林の經營をすることが主な目的であります。が、組合で植林なりその他の森林の經營をする権限はどこからこれは出でるわけですか。

○説明員(武田誠三君) 施設組合が植林その他をいたします場合には、委託計画乃至信託によつて組合員と組合との契約によつてやらせて参りたいと、かように考へております。

生産組合の場合には、これは生産組合それ自身が一つの森林所有者でありますので、みずからの事業として植林をし、伐採をするというふうに考へております。

ります。  
○片柳真吉君 ちよつとわからなかつたのですが、生産組合の場合にはみず

から植林その他の經營をすることはわかつておりますが、例えば植栽をする

土地は必ずしも組合の自由ではないと思うのであります。そうすると自分が所有をしておらない土地に植栽をするその権限が主として賃借契約で行くか、どういう権限でこれをやることになりますか、この質問であります。

○説明員(武田誠三君) どうも御質問の御趣旨を取違えまして失礼いたしました。生産組合が植林をいたしました際の土地との関係であります。これは一つには森林組合の組合員からの現物出資がありました。林地を一つ対象として考えております。それからなおその

場合に名の土地についての賃借権或いは地上権といったようなものの権利の現物出資も一応考えておるのであります。そういった林地を全然持たない生産組合が成立いたしました場合には、その生産組合におきまして他のものから新たに林地を購入いたしまするか、或いは賃借権契約を結んで行く、こういうことで考えております。

○片柳眞吉君 最後に森林組合の今後の指導なり育成の観点でありますと、この新らしい森林組合が考え方を非常にイデオロギッシュに見て行きますと、まあ小さい山林を持つておるとなか／＼これは個人では經營ができない。従つて積極的に組合に經營を委託するなり、或いは信託するなり、或いはその土地を組合に提供して、組合でむしろ大規模な輪伐のできるような総合経営をして行く、こういう非常に強い意図の下にこれが出来られ

ておりまするかどうか、單なる組合員のためにもやるというよりも組合でやはり総合的な或る程度毎年々々輪伐がで

きるような意味から積極的に組合の經營に移すというような方針を持つてお

りますかどうか、これは今後組合の育成にも関係すると思いますので、その辺のお考えを伺つておきたいと思いま  
す。

○政府委員(横川信夫君) 御承知のよ  
うに森林経営といふものは大面積經營  
が最も望ましい姿であるのであります  
が、個々の零細な森林所有者が個々に  
林業經營をいたしておりましたのでは  
林業經營の目的を十分達成することはで  
きない、さような考え方からこの組合  
を作りまして、組合の形において相当  
面積の所有者ということにいたしまし

○片柳眞吉君 もう一つ忘れました  
が、第七十九條の第二項の第九号であります  
りまするが、それから八十四條両方に  
関係しておりますが、団体協約の締結  
というやつがありますが、これは大体  
労務を提供しておるような組合員との  
団体協約ということに解してよろしく  
ございます。

○説明員(武田誠三君) これは組合と  
組合員以外の、例えば取引関係にあり  
ます相手方との間に結びます協約と  
いうふうにお考えを頂きたいと思いま  
す。

○片柳眞吉君 ちょっとその具体的な例  
が私には頭に浮んで来ないのでですが、  
合の地域内で保続的に合理的に森林経  
営ができるという姿が最も望ましいこ  
とと考えまして、将来さよう指導を  
して参りたいと考えております。

そういうような事例の場合が想定できましたら一つ……。

同組合、或いは水産業協同組合等にも  
同様の規定があると思いますが、一種

の例えば組合からの出荷共同販売をいたしますものにつきまして、その買手のほうとの間に一定の価格の取りきめをする。その場合に組合員がそれ以下の価格で例えば相手方と販売の契約をしたというような場合に、団体協約をもつてした価格で契約があつたものとみなす、こういう運用をして参るのであります。

○委員長(羽生三七君) 他に御発言もなければ本日はこの程度にて散会いたします。

午後二時三十四分散会



者は、日本農林規格登録格付機関という名称又はこれに紛らわしい名称を用いてはならない。

2 登録格付機関は、その登録した農林物資以外の農林物資については、日本農林規格登録格付機関という名称又はこれに紛らわしい名称を用いてはならない。

第十八条を次のように改める。

(規格証票等の表示の禁止)

第十八条 農林省の機関、都道府県及び登録格付機関以外の者は、農林物資又はその包装若しくは容器に規格証票又はこれに紛らわしい表示を附してはならない。

2 農林省の機関、都道府県又は登録格付機関は、第十六条第一項の規定による格付を行つたときでなければ、当該農林物資又はその包装若しくは容器に規格証票又はこれに紛らわしい表示を附してはならない。

第十九條の見出しとして「(包装材料等の再使用の制限)」を加える。

第二十一條中「都道府県」の下に「若しくは登録格付機関」を、第二十二條第一項中「都道府県」の下に「又は登録格付機関」を、「当該都道府県」の下に「又は当該登録格付機関」を加え、同條第二項を削る。

第二十四條第一号中「第十四条」を「第十三條」に、同條第二号中「第十八條」を「第十八條第一項」に改め、同條の次に次の三條を加え、第二十五條中「前條」を「前四條」に、「同條」を「各本條」に改める。

3 この法律の施行の際現に農林物資規格調査会の委員である者の任	期は、第四條第四項の改正規定にかかる起算して六箇月を経過した時に満了するものとする。
1 この法律は、公布の日から施行する。	第二十四条の二 左の各号に掲げる違反があった場合においては、その行為をした登録格付機関の代表者、代理人、使用人その他の従業者は、一年以下の懲役又は十萬円以下の罰金に処する。
2 この法律施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。	一 第十四条の規定に違反したとき。 二 第十八条第二項の規定に違反したとき。
附 則	第三 第二十一條の規定による報告をせず、又は虚偽の報告をしたとき。 四 第二十二条の規定による禁止に違反したとき。